

社会的養護における子育て支援員研修制度のイメージ(案)

【小規模化及び家庭的養護の促進 「社会的養護の課題と将来像」(平成23年7月)】

○ 専門性を持つ人材の育成が喫緊の課題

・社会的養護の質及び量を確保するためには、その担い手となる人材を確保し、専門性の向上を図るため、計画的に育成する体制の整備が必要

⇒ **子育て支援員専門研修(社会的養護)は社会的養護への入口**

家庭的養護の推進における課題

小規模化の課題

- (a) 職員がひとりで多様な役割をこなすため、職員の力量が問われる。
- (b) ユニット内できごとが周囲に伝わりにくい。
- (c) 職員に調理や家事の力が求められる。

→ 施設職員の専門性の確保

小規模化の意義

家庭的養護と個別化の推進による「あたり前の生活」

社会的養護が必要な児童を、可能な限り家庭的な環境において安定した人間関係の下で育てる。

人材育成と専門性の確保が喫緊の課題

<里親委託の役割>

- (a) 自己肯定感・基本的信頼感の獲得
- (b) 家庭生活を築くモデルにできる
- (c) 社会性を養い、生活技術を獲得

→ 里親の不足

<ファミリーホームの整備促進>

H26までに140カ所
将来は1,000カ所

→ 養育補助者の確保が困難

施設等の小規模化と施設機能の地域分散化による家庭的養護の推進

「子育て支援員研修」

保育や子育て支援に関心を持ち、子育て支援分野の各種事業に従事することを希望する者等の参画を促進

→ 子ども・子育て及び社会的養護に関する基本的理解を持つ人材層の拡充

社会的養護への入口

女性の活躍等



キャリアアップの具体的道筋

社会的養護における知識・経験等を強化